

「小坂城と筭松」

問 広報広聴課
☎内線3221、3222

その昔、室町時代のことです。

牛久の小坂の愛宕山台地に

小坂城というお城がありました。

お城には近郷の農家から「きく」という娘が女中奉公に上がっていました。

働き者で器用なきくは、どんな仕事も引き受け、陰日向なく働くので

大変重宝がられていました。

きくの一日は、

皆が寝ている朝早く、

南側の裏門をくぐり、階段を

降りた所にある井戸からの

水くみに始まります。

この井戸の水はきれいで、夏は冷たく

冬は温かく、こんこんと湧き出ていました。

きくは、井戸を見ると井戸端で働く

母の姿を思い出し、毎日の水汲みが

母に会える思いでした。

ある朝、胸さわぎがしたので、いつもより

早く目がさめて水を汲みに行きました。

すると西南の方角におびただしい煙が

上がっていました。目をこらして見ると、

これは敵が兵糧（食糧）を炊いているのでは

ないかと思ひ、桶を放り投げ宿直（警備）の

武士に知らせに走りしました。

驚いた武士が早鐘を

ついて急を知らせ、

城の防備が固まり、

不意打ちで小坂城を攻め

亡ぼそうとした敵を

打破る事が出来ました。



戦勝の祝の席で、殿様が

「今度の敵襲を一番先に知らせた者には

望みの品を褒美に与えよ」といわれました。

使いの者から聞いたきくは辞退しましたが

「遠慮はいらぬ」というお言葉なので恐る恐る

「筭をいただきたい」と申し上げました。

「一度でいいから美しい筭で髪を飾りたい」と

いうのが夢にまで見た望みだったのでした。

数日後、きくの所へ包みが

届けられました。

早速開けると、岡見家の

紋が輝く桐の箱でした。

震える手で蓋を取ると、

べっこう作りに銀の模様の

ついた美しい筭が

入っていました。

次の日からは、前にも増して

良く働きました。

その朝は何時と同じように

水汲みに行きましたが、

髪には筭をさしていました。

井戸の上に顔を写し、

キラリキラリと光るのを見て

きくは有頂天になっていました。

「アッ」と叫ぶ間もなく、

筭は湧き出る渦にもまれながら

一直線に吸いこまれてしまいました。

動転して井戸を覗きこみましたが、

見えるのはただ渦だけでした。

楽しかった水汲みが、今では

辛い仕事になりました。

筭…髪を整えるための装飾具



こんな何日かを過ごしたきくは、突然

「嫁入り」を口実におひまを願い出ました。

帰宅したきくは、急なことに驚く母に

事の次第を話しました。母も大層がっかりして、

「お殿様からいただいた筭をなくした事は

お詫ひの仕様もない。人に知れたら大変だから

誰にも言うてはいけませんよ。早く忘れて

元氣になれ」と言って聞かせました。

その晩、きくは家に帰りませんでした。

驚いて皆で探しましたが、とうとう

見つかる事は出来ませんでした。

翌朝、お城の女中が

井戸の底に沈んでいる

きくを見つけた。

母親からわけを聞いた

村人達は「可哀そうに、

きくと、筭恋しさに

井戸の中を覗き込んで

いるうちに、筭に引き

込まれてしまったんだっべい」と

話し合いました。

村人は、きくの霊を慰めるために、

井戸の傍に小さな松の木を植えました。

その根元に、母はきくが大切にしていた

桐の箱を埋めました。きくの人柄がのり移った

かのように松の木はどんどん大空に向かって

伸び、枝ぶりが筭の形に似ていることから

「筭松」と呼ばれるようになりました。

時は過ぎ、とうの昔に小坂城はなくなり

ましたが、井戸はあの頃と同じように

こんこんときれいな水を湧き出し、

風雪に耐えたこの松は、老木ながらも青々と

葉を茂らせ、村人の目を楽せました。

特に雪をかぶった姿は、一段と美しい

筭のように見えたということです。



『牛久のむかしばなし六 小坂城と筭松物語』より抜粋（『牛久の昔話』編集委員会・編集、武川秀男・絵 牛久市立図書館発行 1996年）

40th
牛久市市制施行40周年

小坂城の歴史

この物語

に出てくる

「小坂城」は

小坂町字愛

宕山にあり

ました。城

主は「小田

家風紀」に

「岡見備中守」の名が記されて

いることから、現牛久市域を領

有していた岡見一族であったと

考えられます。城の構造的な特

徴は4つの曲輪（防御のための

平場）があり、それを守る土塁

と空堀が複雑な折れを持つこと

です。これは曲輪の外部にいる

敵を側面から攻撃するとともに、

空堀に侵入した敵の移動を妨げ、

視界を遮るためと考えられます。

戦国期の城跡としての保存状

態が依然良好であることから平

成18年度に「小坂城跡」として市

指定文化財に指定されました。

市では城跡を保存し、遺跡測量・

調査、発掘調査をした後、平成24

年度には「小坂城跡公園」として

一般開放しました。

